

令和2年度第1回横浜市創造界限形成推進委員会  
議事録

日 時	令和2年7月31日（金）10時00分～12時00分	
開催場所	WEB会議形式（事務局設置：横浜市役所18階共用会議室さくら14）	
出席者	野原委員長、六川副委員長、岡本委員、菅野委員、重松委員、日沼委員、簗谷委員、山口委員、恵良氏（オブザーバー）	
欠席者	遠藤委員	
開催形態	一部非公開	
議 題	<p>1 審議事項</p> <p>（1）令和2年度事業計画について</p> <p>（2）令和元年度事業評価について</p> <p>（3）文化芸術創造発信拠点（BankART1929）の活用施設の変更について</p> <p>2 報告事項</p> <p>今後の創造都市施策の方向性の検討「これからのクリエイティブシティ・ヨコハマを考える」について</p> <p>3 その他</p>	
決定事項		
	事務局	<p><b>【開会】</b></p> <p>○令和2年度第1回横浜市創造界限形成推進委員会を開始する。</p> <p><b>【挨拶】</b></p> <p>○文化観光局長から挨拶が行われた。</p> <p><b>【事務局紹介】</b></p> <p>事務局 ○事務局の人事異動について紹介された。</p> <p><b>【資料確認】</b></p> <p>事務局 ○配付資料の確認が行われた。</p> <p><b>【定足数の確認】</b></p> <p>事務局 ○委員9名中8名が出席しており、委員会の成立となる。</p> <p><b>【会議の公開・非公開】</b></p> <p>事務局 ○本会議は横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条により原則公開となるが、審議事項（3）「文化芸術創造発信拠点の活用施設の変更について」は、同条例第7条第2項第5号に当たるため非公開とするが、よろしいか。</p> <p style="text-align: right;">（了承）</p> <p>事務局 ○それではここで、議事に入る前に事務局から2点ほど情報提供させていただきます。</p>

	<p><b>情報提供 1：文化芸術活動への支援対策について</b>          &lt;文化芸術活動への支援対策について、事務局より説明が行われた。&gt;</p> <p><b>情報提供 2：ヨコハマトリエンナーレ 2020 について</b>          &lt;ヨコハマトリエンナーレ 2020 について、事務局より説明が行われた。&gt;</p> <p><b>審議事項（1）：令和 2 年度事業計画について</b>          &lt;令和 2 年度事業計画について、事務局より説明が行われ、議題について審議が行われた。&gt;</p>
野原委員長	○新型コロナウイルスの影響、令和 2 年度の各拠点の事業計画、拠点連携事業 Creative Railway に関して説明いただいた。ここまでの説明について、質問やご意見はあるか。
恵良氏	○元年度評価とセットになるが、前年度に出た課題にどうチャレンジするかの視点があまりなかった。拠点それぞれに課題があるはず。例えば、象の鼻テラスであれば、港湾施設でもあるため港湾局と一緒に何かやるとか、昨今注目が高まっている公共空間活用をもう少しやるとか、チャレンジに関する話が聞ければ良かった。
事務局	○例えば、THE BAYS であれば産業系をどうしていくか、象の鼻テラスであれば港湾局と利活用などについてスムーズに連携できないか、など個別課題についてはそれぞれの分科会で意見をいただき、解決策を前進させていこうという話になった。
野原委員長	○事業計画シートは事業評価と事業計画の配置を工夫し、俯瞰して見られるような形にできると良い。事業評価の構造的問題でもあるが、先に次年度の事業計画を立てるので、その年度の事業評価をしても、それが事業計画に反映されないというのがある。少なくとも前年度の課題への対応状況をチェックできると良いと思う。マイナーチェンジでも良いと思うので工夫していただきたい。
事務局	○ご指摘の点は事務局でも課題と感じており、少しずつ改良しているが、網羅的に見せられるよう工夫していきたいと思う。
野原委員長	○新型コロナウイルスの対応にて補正予算の話があったが、創造界限拠点に関しては情報交換も含めて、具体的にどのような対応をされたか聞かせて欲しい。
事務局	○急な坂スタジオでは、昨年度分について新型コロナウイルスで影響を受けた分の財政的な補填を行っている。日々の運営については、消毒や入場者制限など工夫しながら実施している。今後も影響は続いていくため、運営に支障がないよう市としても支援していく。
野原委員長	○換気設備などハード面を拠点で対応するのは難しいこともあるので、拠点個々の状況に寄り添いながら、情報交換を密にして支援をお願いできればと思う。

恵良氏	○拠点にとっては医療の専門家のサポートや相談がとても大切で、そういった取組が始まっているところもあるので、参考にしてほしい。また、拠点の努力で国際交流といった国際的な要素が高まってきているが、新型コロナウイルスや世界の政治動向の影響など、今後拠点が国際交流を行う場合には、世界情勢の影響は欠かせない視点となる。
事務局	○施設の改修等については、文化庁などの助成もあるため、拠点とは密に連携を取っていきたい。また、稽古場などは実際に運用していく上での課題があると思うので、ACY や医療関係者からもアドバイスをもらいながら進めていきたい。国際交流については、国際局が友好都市等で実施しているものや、BankART や黄金町で独自に開いているネットワークもある。こうした情報を共有しながら、現場での交流がうまくいくようにサポートしたいと思う。
野原委員長	○では、質問、意見がなければ、審議事項（１）については了承でよろしいか。
	（了承）
	<p><b>審議事項（２）：令和元年度事業評価について</b></p> <p>&lt;令和元年度事業評価について、事務局より説明が行われ、議題について審議が行われた。&gt;</p>
野原委員長	○各分科会の議長から令和元年度事業評価と令和２年度事業計画について補足説明を頂戴したい。
簗谷委員	○文化芸術創造発信拠点については、分散型拠点に移行しての初年度という中で、後半は新型コロナウイルスの影響もあったが、非常によくやったと思う。新拠点に移行し、改めてネットワークを構築していかなければいけないという大きな課題があったが、その中でも収支バランスを含め、非常によくやっている。特に BankART Station では、みなとみらいの企業と連携が生まれ、そういう動きが創造都市の取組全体につながれば良いという意見が出た。一方で、運営団体からは、関内などには千人を超えるクリエイターが集積しており、例えば古いビルに格安の賃料でアーティストに入居してもらうサポートなどを行うことで、古いビルの延命にもつながっているという話があった。これまでのアートの振興だけではなく、新旧の市街地を巻き込んだまちづくりがうまくできていると感じる。市としてクリエイターが集まっていることを情報発信できると良い。一方、集まってきたクリエイターが出ていかない仕組みづくりが課題だと思う。運営団体からは横浜でアーティストの仕事がつかれるのか、横浜から世界に発信できるのかが問われているとの意見があり、市としても創造界隈の取組を一体的に支援できたら良いと思う。新型コロナウイルスを契機に、次年度以降は以前の状態に戻すという発想だけではなく、デジタルを含めたような新しい展開ができれば良い。

山口委員	<p>○急な坂スタジオについては、限られた人員、予算と体制の中で非常によくやっている。特に、若手アーティストの育成は非常にコミットしており、それぞれの要望や状況に応じてサポートしていることは高く評価している。一方で、子供向けプログラムが少ないという課題があり、分科会としては子連れでの参加を可能にするなどのアイデアを出している。市に対しては、若手の育成は、すぐに結果が出るものではないので、長期的な視点で評価するというのと、市民への周知などに協力していただきたい。稽古場としては、新型コロナウイルスの様子を見ながら利用受付を始めているが、運営について引き続きサポートをお願いしたい。TPAMについては、フリンジにオーガナイザーとして参加して、今回も非常に良い企画を展開し、国内外のプロフェッショナルから高い評価を受けた。今回実施した TPAM や BATIK100 会などのような、稽古場の利用者以外も対象にする展開を今後もできると良い。</p>
日沼委員	<p>○初黄・日ノ出町については、例年、運営・経営面で厳しい評価が出ていたが、収支管理を徹底し、特に黄金町の特徴であるレジデンスでの黒字を確保できている。支援者を獲得するための寄付キャンペーンやネットショップという補助金以外の収入増にも非常に力を入れている。メインのレジデンスは、今後の新しい日常の中でどのように運営していくかが課題となっている。特に海外との交流においては、双方の信頼関係が重要なので、交流が途切れることのないよう、オンラインでの展開をはじめ、柔軟な対応が求められる。拠点づくりとアートの表現をどう育成していくのかという、世界的に見ても非常に特徴的な取組をしている。黄金町の取組をしっかりと伝えるような検証を工夫していただきたいということが話し合われた。</p>
菅野委員	<p>○象の鼻テラスは、市民の無料休憩スペースであり、港湾施設としての制限がある場所。一方で、質の高いアートプロジェクトを展開していかなければならないという、難しい命題を背負っている。こういった制約がある中でも開館から 10 年間、試行錯誤しながら、取組を続けてきたことは高い評価を得ている。昨年度、運営団体の公募があったが、現団体が引き続き運営を行うことに決まったので、これまでの取組が継続され、かつ発展していけることは一つの安心材料となる。分科会では、運営並びに内容に関して質の高さを指摘もされているが、これには運営団体から誠実に対応いただき、常に改善を図っているので、全体的に高い評価である。市民からアイデアを募り実施したフューチャースケープ・プロジェクトでは、なるべく多くのアイデアを実現することを目指して展示したところ、非常に好評だった。こういった体験から、今後、象の鼻テラスのアートプロジェクトを、市民と伴走して実施する方向に切り替えていくことは分科会としても支援していきたい。PORT JOURNEY プロジェクトは、市の港湾姉妹都市とのディ</p>

	<p>野原委員長</p> <p>六川委員</p> <p>野原委員長</p> <p>岡本委員</p>	<p>レクターズミーティングなどが展開されているが、市民への可視化には課題が残る。加えて郊外区にアウトリーチする場合は、これまでと全く違う展開になるので、地域の方たちと丁寧な対話を積み重ねた上でプロジェクトを進める必要があるので、市からもサポートしてほしい。</p> <p>○THE BAYS については、開設から4年目を迎える比較的新しい拠点だが、運営形態が賃貸借契約に基づいているので、評価の基準が他の拠点と違う面があるという意見が出た。全体の運営としては、官民連携で工夫しながら、運営団体をサポートしてほしい。活動も増えてきていて、拠点の存在も認知されてきているが、CREATIVE SPORTS LAB や創造産業集積の拠点としての認知度はいまひとつなので、THE BAYS 全体が創造産業の拠点として、様々な人が集まり、活動していることをうまく発信できると良い。各階でも色々なプロジェクトを実施しているが、一体感がないのも課題である。本拠点は、歴史的建造物としての制約はあるものの、日本大通りの前に位置し、中庭もあるので、活動の見える化や公共空間の利活用の面で、市と協力しながら進めてほしい。近年、経済局やYOXO BOX の活動も活発化しているので、これらとも連携しながら、クリエイティブと産業育成のマッチングを進めてほしい。</p> <p>○ヨコハマ創造都市センターについては、自主事業費を自己資金で賄うというスキームは、経営的には厳しいものでもあったが、来館者や総売上も増加し、毎年の課題に対しても翌年には改善を図っていただき、よくやっていただいた。地元馬車道とコラボレーションしたウマジンも、多くの子供たちに楽しんでいただき、矢沢永吉展も非常に集客力のある企画だった。一方で、さらなる成果を上げるためには、スキーム自体の見直しの検討も必要かと考えている。また全体的な話だが、創造都市施策そのものの見直しの時期が来ているのではとも考えている。</p> <p>○事業評価・事業計画も含めて、意見はあるか。</p> <p>○BankART1929 の事業評価の市の取り組むべき事項の中に、全ての市民を全拠点の事業でターゲットにするのではなく、創造界限全体でバランスが取れていればよい、拠点ごとの特色を踏まえた柔軟な考え方を再検討するべきという項目があるが、ぜひ検討していただきたい。急な坂スタジオでは、若手育成に積極的に取り組んでいて、成果も非常に上がっている。一方で、子ども向けのプログラムに苦戦しているところもあり、拠点によって向き不向きがある。例えば、象の鼻テラスは施設の性質上、多くの市民、子どもが集まりやすいので、市民・子ども向けプログラムを多く実施している実績が既にある。拠点連携とも関係するが、1拠点だけでなく、全体で見るということをもう一度念頭に置いてみても良いと感じる。</p>
--	---	--

事務局	<p>○拠点にもそれぞれ特色があり、今年度は Creative Railway による連携も行う。横浜ならではの創造界限というコンセプトの中で、各拠点がどういう個性を出していくかということは、多くの拠点が公募を迎えるタイミングに合わせて、検討していければと思う。</p>
野原委員長	<p>○拠点連携は以前から話題に出ていたので、具体的に検討いただきながら、各拠点の個性と全体のバランスをうまくマネジメントしていただきたい。</p> <p>○質問、意見がなければ、審議事項（２）については了承でよろしいか。 （了承）</p> <p><b>審議事項（３）：文化芸術創造発信拠点（BankART1929）の活用施設の変更について</b>      &lt;文化芸術創造発信拠点（BankART1929）の活用施設の変更について、事務局より説明が行われ、議題について審議が行われた。&gt;</p> <p><b>報告事項：今後の創造都市施策の方向性の検討「これからのクリエイティブシティ・ヨコハマを考える」について</b>      &lt;今後の創造都市施策の方向性の検討「これからのクリエイティブシティ・ヨコハマを考える」について、事務局より説明が行われ、議題について意見交換が行われた。&gt;</p>
野原委員長 恵良氏	<p>○ここまでの説明について、質問や意見はあるか。</p> <p>○１点目は、機能的な人の構成と都市における面的な考え方を意識してほしい。2007年頃の創造都市のプランの中に、臨海部へ向かう軸の議論があった。日本大通りと馬車道の２つ、つまり新市庁舎と旧市庁舎のあり方が見えてきて日本大通りの軸が見えてきた。海岸通り周辺にも動きがこれから出てくるであろうことから、当時描いた軸がどうなるか正念場が近いと思っている。それと同時に、象の鼻テラスと赤レンガ倉庫の間の水路、黄金町に至る水景、など水辺の扱いが重要になってきたときに、アーティスト・クリエイターの人たちの活躍の場ともなりうるので、地図的な発想を意識すべき。２点目は、ACYの活動を皆さんに理解いただき、それが創造都市の中でどういうポジションを取るのが良いのかなども頭に置いてもらえると良い。芸術文化振興財団では、コロナ禍での文化芸術活動の支援の手伝いをしてきたが、支援を受けたい人の半分は音楽関係だった。文化芸術を支えるエンジニア群も多く、結構いるというのをあらためて感じた。今回意外と少なかったのは美術系。ジャズプロムナードや音祭りから生まれたネットワークとも関係もあると思う。こういった人、地図、プラットフォームも今後の検討の材料にしていく必要があると感じた。</p>
菅野委員	<p>○マッピングに関して、横浜市内のクリエイターやアーティストたちの業種や活動について、できれば市で詳細なデータを調べていただける</p>

	事務局	<p>と考える一つの手立てになると思う。すぐということでないが、検討する上で情報はすごく重要。</p> <p>○ACYの活動が平成19年度から始まった中で、具体的な成果もあるが、見えていない部分もあるかと思うので、芸術文化振興財団とも協力しながら、成果を分析していければと考えている。コロナ禍での相談窓口など様々なアーティスト・クリエイターの支援メニューを行うなかで、気づけなかったところが出てきているので、今後の施策の検討材料にできるかと思う。地図的な発想については、都市整備局などとも連携し、どういったことができるのか考えていければと思う。関内・関外地区のクリエイターの状況についても、業種や人数などの分布をこれから調査していく。</p>
	重松委員	<p>○横浜市はスピードをもって補正予算を成立させ、新型コロナウイルスに対する文化芸術活動の支援の取組は素晴らしいと思うので、もっとPRをしてよいと思う。例えば、東京都では10万円支援したことが日経新聞や朝日新聞に掲載されたが、横浜市は一般的なニュースになりにくかったと感じた。文化芸術創造都市をPRするチャンスだと思うので、市としてのPR戦略をもっとしっかりやって良い。BankART1929の施設変更が10月にあるので、このタイミングに合わせて、市としてどういう情報を出していくか、戦略的にやる必要があると思う。</p>
	事務局	<p>○今回の支援については、全国紙でもいくつか取り上げられている。例えば、相談窓口は専門家を雇ってチームをつくっており、全国でも例がないもので、これに倣う自治体も出てきた。芸術文化振興財団の持つ広報ツールやネットワーク、知恵を借りながら発信をしていくということが市民の理解につながると思うので、努めていきたい。</p>
	六川委員	<p>○クリエイターのリスト化、情報発信は大切だと思う。これは、民間にもクリエイターの情報が入って、結果、クリエイターのビジネスチャンスが生まれる。現状、ビジネスチャンスが少ないのではと思っており、残念ながら、横浜市からクリエイターが離れていくという現象も出てきているので、こういった取組は必要だと思っている。</p>
	事務局	<p>○経済局との連携が一つの方法としてある。クリエイターのアイデアと市内の企業の技術力等をつなげるような場づくりを経済局などと連携してやっていく。クリエイターの活動の場は、以前と比べて、みなとみらい地区にも広がりを見せているので、ネットワークを構築していければと思う。</p>
	野原委員長 事務局	<p>○方向性（案）については、どのようなスケジュールで出てくるのか。</p> <p>○全体のスケジュールで言うと、次の中期計画は令和3年秋ごろが策定時期となる見込みのため、そこまでにある程度のアウトプットを想定している。アウトプットの内容は、横浜市の強みや課題、それらを踏まえた少し先の将来像や次期中期計画の最終年となる2025年の目指すべき姿、方向性を想定している。今年度は、これまでの現状分析な</p>

	<p>野原委員長</p> <p>事務局</p> <p>野原委員長</p> <p>野原委員長</p> <p>事務局</p>	<p>どを行った上で、大まかな形で 2025 年の創造都市・横浜の目標像、可能であればそれに向けての取組の柱立てが 3 月頃までにできればと考えている。年明けの委員会では、骨格となる方向性を出していければと思っている。</p> <p>○10 月頃には何らかの方向性の案が出るというものなのか。方向性の案にも意見が出ると思うので、早めに方向性が見えるほうが議論はしやすいと思う。</p> <p>○8 月、9 月で委員や関係者へのヒアリングを行いつつ、現在行っている調査のアウトラインが大体 10 月頃に出ると思うので、10 月は現状に関するデータやヒアリング結果をお示しし、これに対して 10 月と 11 月の委員会で意見を頂ければと思っている。実りある意見交換ができるよう、準備していきたいと思う。</p> <p>○振り返りをする上で、きちんと評価できる指標についても整理していただきたい。また創造都市の取組の中には、数字には出てこないが、相当なチャレンジが行われてきたことの成果もあると思うので、これらも踏まえて評価していただきたい。</p> <p>○質問、意見がなければ、報告事項については以上とする。議事が全て終了したので、これ以降の進行を事務局にお返すする。</p> <p><b>3 その他</b></p> <p>&lt;事務局から議事録の確認依頼や今後のスケジュールなどについて、事務連絡が行われた。&gt;</p> <p>○これをもって、第 1 回横浜市創造限界形成推進委員会を終了する。委員の皆様、長時間ありがとうございました。</p>
資料	<p>①次第</p> <p>②委員名簿</p> <p>③前回議事録（令和 2 年 2 月 20 日開催分）</p> <p>④ [資料 1] 令和 2 年度事業計画シート</p> <p>⑤ [資料 2] 令和元年度事業評価シート</p> <p>⑥ [資料 3] 文化芸術創造発信拠点（BanKART1929）の活用施設の変更について</p> <p>⑦ [資料 4] 「これからのクリエイティブシティ・ヨコハマを考える」について</p>	
特記事項		